

福井県高P連 会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会
(福井県生活学習館)「ユー・アイふくい」内 宮谷正志



第65回全日本吹奏楽コンクールでの武生商業高校の演奏風景(H29.10.22 名古屋国際会議場にて)

福井県高P連研究大会

県高P連研究大会が十一月四日(土)アオッサ八階県民ホールで百五十四名が参加して開催されました。開会式では、まず宮谷正志県高P連会長が「各高校PTA同士のつながりを大事にして情報を共有し交流を深めてほしい。各PTAが素晴らしい活動を実践していることを皆さんに知っていただきたい。」と挨拶された。続いて、県教育庁高校教育課の清川亨課長は、祝辞の中で高校再編を始めとする今後の課題と対策について話されました。また、県高等学校長協会長の藤澤春和武生高校長は、福井国体に向けスポーツが持つ大きな効果と国の教育改革の概要に触れた話をされました。



清川 亨 課長



藤澤春和 校長

- 一 子どもの道徳心を育む必要性
 トラブル傾向にネット上での特異点が少ないことから、子どもへの教育は、通常のモラル教育の実践が有効である。
- 二 スマホはLINEの利用開始時のコミュニケーション
 利用方法や利用時間はもとより、インターネットの特性や危険性について利用開始時に子どもとコミュニケーションしておくことが大切である。
- 三 子供が相談できる環境づくり
 普段からインターネットに関するコミュニケーションを子どもも持つなど、子どもがトラブルに巻き込まれた際にひとりでは





抱えこまず誰かに相談できる環境づくりを行うことが、重症化を防ぐ重要な要素になる。

LINE株式会社実践するネットリテラシー啓発活動

一 「生徒主体」型の授業

「解は子どもが持っている」という考えのもと、授業プログラムを作成している。特にワークショップ型授業では、児童・生徒間の対話を重視。

二 「自分事」として考えられる素材の提供

身近な事例を題材（すぐに返信がない）「なかなか会話が終わらない」にする。トラブルが起こらないための対応だけでなく、トラブルが起こった時の対応についてもケーススタディで学習。

三 「考える」ことを重視

正解のない事案を提示し、様々な視点や価値観を知る。知識の共有から「知見」の共有へ。

講演に引き続き実践発表が行われ、金津高校PTA、鯖江高校PTA、武生高校PTAがそれぞれの特徴ある活動について発表しました。

「家庭教育とPTA活動について」

金津高校PTA副会長 高木隆敏



昭和五十八年に開校し、平成十七年から芦原中、金津中との連携型中高一貫教育校になり、現在は全校生徒のほとんどが進学を希望する普通科高校。生徒数は六百五十九名で、94.5%が旧坂井郡の中学校出身者で占めており、文武両面を目指す生徒が多い。

PTAは総務、広報、補導の三つの常任委員会に分かれていて、総務は研修会の企画運営、広報は広報紙の発行、補導は登下校指導、祭礼時の巡視活動等を行う。全体活動では、清掃ボランティアとして、生徒、保護者、教員で学校周辺と駅構内の清掃活動を行ったり、学校祭で大勢の会員の協力を得て、PTA模擬店を開催したりしている。

二月のPTAを考える会は、学習・進路、生徒指導、情報発信について、役員と教職員が意見交換する有意義な場となっている。

家庭教育の在り方が重視される現在、保護者が出来る事は家族とのつながりを持ち、親の生き方を示し、子ども達を見守る事である。これからもPTA行事を通して、保護者同士が連携協力して成長する事が大事だと考える。

「生徒指導とPTA活動」伝統と共 に未来を拓く鯖江高校」

鯖江高校PTA総務委員長 嘉門大助

平成二十六年に創立百周年を迎えた伝統のある進学校。また、部活動も盛んで、生徒は文武両道を目指している。

PTA総会は保護者



が参加しやすいように土曜日に開催し、保護者の意識を高める為に進路講演会を同日に併せて行っている。交通安全指導は5月下旬と9月中旬の年二回、車通りの激しい三地点で行っている。進路研修会は地元の大学、短大を中心に、専門学校、就職も含めて各学校・進路先から関係者を招いて実施している。生徒指導合同会では、七月下旬に丹南高校と合同で鯖江警察署より講師を招き、現在の高校生の状況を具体的に話してもらい、生徒の現状や保護者としてどう関わればよいかなどを話し合っている。

文化祭では、PTAバザーを開催し、応援やマスコット、パフォーマンス、合唱等の審査もしている。広報活動では、広報紙「王山」を年二回発行し、ホームページは「見やすい」「新鮮」「正確」を目指して更新に励んでいる。本校PTAは子どもとともに考える「未来への応援」と、現在の学校生活の充実を支援する「現在の応援」を柱として生徒にとつてよりよい教育環境の整備支援に向けて努力している。

「生徒を真ん中に、先生と保護者の 『三人四脚』で子どもたちをサポート」

武生高校PTA前会長 板倉行規
武生高校PTA会長 中村忠嗣

武生高校は、開校百十九年目の県内有数の進学校である。設置学科は普通科と理数科で一学年九クラスで全校生徒数は九百六十三名。理数科は文部科学省のスーパーサイエンススクールの指

定を受けている。



今までのPTA活動の問題点として①一部の人たちのための活動になりがち②連絡が届かない③学校の様子がわからず学校へ行く機会がない等が挙げられる。そこで生まれたのが「学校へ行こう」というスローガン。学校を知ってもらおう、ど

んどん学校に（行事に）来てもらおうと呼びかけた。（平成二十九年度スローガンは「明朗自立の児を目指して」）。PTAは、総務部、進路部、環境部、研修部、広報部に分かれ活動している。研修部では大学視察の研修旅行を企画し、日帰り圏内の国立大学・私立大学を視察し卒業生との懇談を通して保護者として今何をすべきか、何が出来るかを考える機会にしている。進路部では「先輩と語ろう会」を開催し、様々な分野の先輩が高校生の時どのように考えて進路を決めたかを知ること、文理選択時や進路選択時のヒントを提供している。

研修部の教育懇談会は、様々なテーマで教職員・保護者が一緒に話し合うことで保護者と先生との絆を深め、PTA活動の活性化につなげている。

学校で生徒は結びつき、家では親子で結びつき、さらに教師と保護者が結びつくことで強力な三人四脚になる。この絆が共通のゴールに進む一番の原動力になる。

講演、実践発表ともに大変興味のある話を聞くことができ、今後のPTA活動を考える一助となる充実した研究大会でした。
（金津高校PTA会長 山崎善行）

全国高等学校PTA連合会大会 静岡大会
 『有徳の人づくり』未来のために
 行動する「一人」を育てよう



静岡県小笠山総合運動公園エコパを主会場に八月二十四日(木)・二十五日(金)の二日間に行われ、第六十七回全国高P連大会静岡大会が『有徳の人づくり』未来のために行動する「一人」を育てよう』をテーマに全国から九千三百八十八名、福井県から百四十四名が参加して盛大に開催された。

テーマの「有徳の人」とは、個人として自立した人、人との関わり合いを大事にする人、より良い社会づくりに参画し行動する人を意味します。少子高齢化、経済のグローバル化、情報社会の進展など、大きな変革の時代を迎

え、フリーターやニートの増加、地域産業の空洞化、経済格差の拡大、情報モラルの低下など様々な課題を抱える中、日本の未来のために行動する「有徳の人」を育てるため、子どもたちが高い志を持って学び未来を切り拓いていく力を養うことができる環境を整えていくことが、私たちPTAの使命との思いから大会テーマが定められたそうです。

一日目は、先ず地元高校生による郷土芸能部や吹奏楽部の皆さんによる若さと活気にあふれたアトラクションで始まりました。

開会式では、杉浦政紀実行委員長の挨拶、牧田和樹全国高P連会長の式辞、更には林芳正文科大臣・川勝平太静岡県知事の祝辞に続き、PTA活動に功績のあった個人・団体に表彰状が授与されました。



全国高P連会長表彰

個人

- 増永哲也 羽水高等学校教育成会
- 下出良一 坂井高等学校PTA
- 鈴木良一 丹南高等学校PTA

(敬称略)

団体

- 坂井高等学校PTA
- 若狭東高等学校PTA



表彰式後、会場にて 左より個人の部(鈴木良一氏、下出良一氏)団体の部(坂井高校 南後和宏氏)

二日目は、再び全体会場のエコパに集まり、静岡出身の俳優、寛利夫氏による講演会「寛利夫 これがオレの生きざまだ！」が実施され、その後、分科会報告がありました。

閉会式では、大会会長の挨拶後に、大会宣言の採択、次期開催県(佐賀県)実行委員長の挨拶等があり、二日間にわたる中身の濃い大会の幕を閉じました。



寛利夫氏

基調講演は、NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」をはじめ時代考証を多く手掛け、戦国時代史研究の第一人者として名高い小和田哲男氏(静岡大学名誉教授)による「戦国武将に学ぶ子育てと人づくり」と題するお話でした。

午後は、分科会が県下四会場に分かれて実施されました。



小和田哲男氏

「有徳の人」、それはたとえるなら、富士山のように独立した高き頂を持ち、社会の中に豊かなすそ野を広げていくような人であろう。子どもたちの未来のために何ができるか。これからも、学校・家庭・地域が連携を深めていくPTA活動を目指そうとの思いを新たにしました。

(敦賀工業高等学校PTA会長 石井俊之)



北信越地区高P連研究大会富山大会開催

七月七日・八日の二日間、富山県民会館を主会場に北信越地区各県から千六百七十七名が集い、本県からも百六十四名が参加して北信越地区高P連研究大会富山大会が開催されました。開会式では、北信越地区高P連会長・全国高P連会長の挨拶の後、富山知事及び富山市長から祝辞をいただきました。その後、P T A活動で功績のあった三十四人が表彰され、福井県からは次の六名の方が受賞されました。

福井県の栄えある受賞者

- 宮谷正志 (福井農林高校 P T A 会長)
 - 宮越秀哉 (丸岡高校 P T A 会長)
 - 板倉行規 (武生高校 P T A 会長)
 - 垣本祐浩 (若狭高校 P T A 会長)
 - 和田良教 (足羽高校 P T A 会長)
 - 山口由美 (福井農林高校 P T A 副会長)
- (敬称略・役職は二十八年度)

歓迎アトラクションでは、富山県立南砺平高等学校郷土芸能部による五箇山民謡が披露され満場の参加者を魅了しました。



次に、四つの分科会に分かれ、研究発表・研究協議が行われました。

*福井県の分科会発表

第一分科会『高校教育とP T A』
「明るく楽しく実りあるP T A活動」
福井商業高校 P T A 副会長 黒田尚吾

第二分科会『進路指導とP T A』
「生徒を真ん中に、先生と保護者の
三人四脚で子供たちをサポート」
武生高校前 P T A 会長 板倉行規

第三分科会『生徒指導とP T A』
「若狭高校のP T A活動と生徒指導」
若狭高校 P T A 会長 山本善一

第四分科会『家庭教育とP T A』
「地域を知って未来をつかむ」
丸岡高校 P T A 会長 前川 徹

私が参加した第二分科会では、長野県立伊那弥生ヶ丘高校が、暑さ対策として扇風機設置についての発表を行なっていました。本県の高校ではエアコンの設置が進んでいますが、他県ではまだだという状況が分かり、本県の充実度が高いことに驚かされました。他県からも良い環境に対して、羨ましがられました。

各学校で毎年頭を悩ませている総会の参加率について、参加率八十%を超える学校のアイデアが発表され非常に参考になりました。その学校では、午前中に学校公開として校内施設をはじめ授業・実習を参観し、総会の後には部

活動の見学会を組み入れているとの事でした。P T A が学校と相談して積極的に学校に来てもらえる状況を作ることによって参加率が自然に上昇したという事でした。

本県の武生高校は、総会の時だけの参加ではなく、普段から保護者に学校に来てもらいたいと呼びかけることで、学校やP T A の活動に対する理解を深めていくこととする試みの発表でした。武生高校の発表では、パワーポイントのスライドに音楽をつけ、言葉と音楽で進行していくユニークな挑戦でした。(映像機器が不調というアクシデントがありました。後日、福井県高P連研究大会での研究発表で、再度挑戦し拍手を受けました。)

一日目の夜には、教育懇談会が開かれ、参加者同士のコミュニケーションはもちろんのこと、各校のP T A 行事やその進め方、実施しているアイデアなどについて県の枠を超えて話し合えた貴重な機会となりました。



第1分科会 福商高校発表



第2分科会 武生高校発表



第3分科会 若狭高校発表



第4分科会 丸岡高校発表

二日目は、富山県出身の個性派俳優室井滋氏の記念講演「いろいろありませぬが、個性をのばすとは……」を拝聴しました。

いきなり演歌の曲がホールに鳴り響き、マイクを

持った室井氏が客席の後方から歌いながら降りてくる登場の仕方に、まず参加者は驚かされました。また、講演会という講師がステージ上の演台で話をする人が多い中、室井氏は、地元北日本放送のアナウンサー鍋田恭子さんとの掛け合いで語るというもので、漫才を見ているようで終始目が離せませんでした。聞くところによるとこのペアは、講演と称して、歯に衣着せぬ本音トークで色々な講演会場を「荒らしている」(沸かしている)そうです。

富山から上京し、様々な社会経験をした事が個性派女優と言われる今の室井滋を作っている、というお話で公演は締め括られたのですが、笑いあり、涙ありの講演とトークセッションは時間を忘れるほど「きときと」していて、あつという間に終わりました。

二日間を振り返って各分科会での実践事例を振り返ってみると、先生も保護者も子どもや学校の環境をより良くするために一生懸命アイデアを絞って話し合っていることが胸にひしひしと伝わってきて、共感の洪水に打たれた充実した時を過ごすことができました。

(武生工業高校 P T A 会長 橋本 衛)



室井 滋氏

キャリアガイダンス研修会

県PTA連合会主催のキャリアガイダンス研修会が9月9日(土)の午後、福井生活学習館(ユー・アイふくい)において開催されました。参加者は百十四名で会場の映像ホールは百二十名以上入る広さでしたが、満席の盛況でした。

まず、県高P連会長の宮谷正志氏の開会の挨拶があり、続いて研修会第一部が始まりました。内容は、「賠償保険制度について詳しく知ろう!」全国高P連賠償責任補償制度および高校生総合保障制度の特徴」という題で、AIU損害保険株式会社の方の保険制度についての説明でした。

高校生を取り巻く様々な危険を例にあげながら、個人賠償責任保険の内容を、分かりやすく説明していただきました。さらに福井県の現状や県内の事故状況と支払い状況などが資料として示されました。どのようなケースでこの保険が役に立つのかという点など、加入者が知らなければならぬ情報を分かりやすく丁寧に解説され、保護者・教員に有益な情報だったと感じました。



■全国高P連

賠償責任制度のポイント

- 1 賠償責任に特化(学校内外、プライベート中も補償!)
- 2 生徒だけでなくPTAに対する賠償責任も補償
- 3 学校単位での加入で安心・簡単(県高P連加入校は全校加入)

■高校生総合保障制度

(任意加入)のポイント

- 1 自転車事故等を含めて示談交渉サービス付き最高2億円まで補償
- 2 簡易支払い特急便(電話一本)でスピード対応
- 3 団体割引15%適用

■高校生総合保障制度の

平成28年度の支払実績から

総件数57件(自転車45件、子ども総合保険42件)
 支払金額13,319,356円
 (自転車2,188,000円、子ども総合保険11,131,356円)

質疑では、実際に困った状況に直面した方から、かなり突っ込んだ質問等もあり、自分自身を自分で守る時代背景もあって、その関心の高さが伝わってきました。

第二部は講演会でした。「アナログとデジタルの融合時代に必要不可欠となる人間性」と題して、小浜市の製菓会社社長である木越和夫氏が講演されました。講師の木越氏は数年前にも講演いただいたそうですが、話題が豊富で話が面白く、リクエストがあつての再依頼だったそうです。

一年間に、相当数の講演をなさるそのうで、話の要点・呼吸・会場の把握や盛り上げ方も絶妙で、常に笑いの絶えない講演でした。演台の所で話をするというスタイルではなく、聴衆の中に降りて行って、会場を動き回りながら次々に質問を繰り出すので、皆さんは笑いながらも緊張して聞いていました。面白い答えには用意してあった箸やサインの入った色紙をプレゼントしながら、息つく暇もないほどの語りぶりでありました。特に演題にはとらわれず、自由闊達に話してくださいました。講演の根幹は、「より良く生きるために」ということだったと思います。

また、会社の経営者という立場から教育を見るといふところがとても新鮮でした。話の中で、「教育の目的は、子どもたちに幸せな人生を歩ませること」とおっしゃっていたのが大変印象に残りました。

胸に響いた木越語録

- 人のふり見て、わがふり真似せ
- 人から頼まれる人になれ
- 笑いこそアクティブパワー



木越和夫氏



保護者も教員も大人ですから、良いことと悪いことの区別は当然つきまします。しかし、「これが教育」、つまり自分の子どもに対峙するときに、建前や世間体、さらには古い価値観などがどうしても拭い去れません。どうすれば後悔しない躾や教育ができるのだろうか、と、帰りの車の中で真剣に悩んだのは、決して一人や二人ではなかったと思います。また、スマートフォンに代表されるような社会構造そのものを急速に変化させてしまうものが登場してきました。AI化によって、近い将来には現在ある職業の半数近くが消滅すると言われています。

しかし、どんなに(デジタル化)が進もうとも、人間としての基本は(アナログ)であるとの木越氏の信念は重要な示唆に富んでおり、明日からまた頑張ろうという前向きな気持ちにさせる講演でした。本研修会のような研修会の企画・運営を今後も期待したいと思います。

(武生東高校PTA会長 長谷川洋之)

ちよつと ぶじやましまくす!

Introduction

高志高校

街路樹が黄色く染まり、風が肌寒く感じられる十一月の初旬、高志高校におじゃましました。同校は、福井駅から東へ徒歩十五分の交通の便のよい位置にあり、遠方から通学する生徒も少なくないそうです。

高志高校の特徴の一つとして、公立学校では県内初導入の中高一貫教育が挙げられます。平成二十七年から中学一年生の入学が始まり、現在中学三年生までの二百六十八名が在籍し、高校は理科科生徒が百十四名、普通科生徒が七百二十六名で、中高を合わせると千名を超える大規模校となります。

中学・高校共に校訓には、伝統の「克己」、創造、敬愛」を掲げ、朝八時十分から朝学習や朝活動が始まり、七限目までの授業を終えて部活動開始となる文武両道の充実した高校生活を感じました。

高校では、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SSH)とスーパーグローバルハイスクール(SGH)とSGHの二つの指定を受け、すべての生徒がどちらかに属し、SSHは、「積極的に課題解決に取り組み、世界に貢献できる科学技術に関わる人材の育成」を、SGHは「ふくい発、東アジアの発展と希望に貢献するグローバルリーダーの育成」を目標にして活動を行っています。活動の場は県内外に留まらず国外にも及び、学校や企業と連携した課題の発見と研究に取り組んでいるとのことでした。

この活動の中で大きな行事は、二年次に実施される研修旅行だそうです。国

内外九コースから選択し、課題研究の調査や発表・国内外の同世代との交流・企業訪問等のメニューを体験するそうです。これらの貴重な学習や体験は、今後の学校生活やその後の人生において必ずや役に立つものと感じました。

次にPTA活動について聞きました。主な活動は、総務委員会によるPTA Aだよりの発刊、進路委員会による進路についての意見交換会、補導委員会による交通安全指導であり、熱心に取り組んでいるとのこと。中でも、年に一度開かれる「進路についての意見交換会」(写真参照は今年で二十五回目を数え、PTA Aによる伝統的な行事だそうです。卒業生やその保護者の方々に招いて体験談を直に聞き、様々なワーキングをするそうです。不安を抱える保護者の道標となり、有意義でユニークな活動だと感じました。今回の取材を通して、SSHとSGHのW指定、中高一貫教育といった他校に無い体制の中で、生徒たちが個性豊かで積極性・自主性を持った人材に成長していることを実感しました。

(取材) 羽水高校育成会会長 天谷嘉伸



Introduction

大野高校

すっかり冬らしくなつた十一月二十一日、大野高校におじゃましました。応接室には中村圭吾会長と杉本教頭、それにPTA担当のお二人の先生が迎えて下さいました。席に着くと、今年度のPTA事業計画表が渡されたので、それを見ながら大野高校のPTAについて伺うことにしました。「特色ある行事はどれですか?」とお聞きすると、中村圭吾PTA会長は次の3つを挙げられました。

まず、「親と子のフリートーク」(写真参照)という二十年近く続いている行事です。保護者と生徒がグループに分かれてテーマに沿いながら思うことを自由に話し合う、という趣旨で補導委員会が担当します。お菓子をつまみながらなかなかやかな雰囲気の中会話が弾むそうです。今年度は外部講師の方をコーディネーターとしてお呼びした結果、とてもスムーズに進行し充実した話し合いになったそうです。終了後参加した生徒からは「大学進学のことや心配ばかりしていたが、今日、みんなではめ合ったことで勇気が出てき

この企画は、調査広報委員が直接「ちよつとおじゃま」し、伺った話の中から委員独自の感性でこれはと思われれるものを紹介していくものです。



た。(三年男子)「お互いをほめ合うことで負の感情がなくなってきた。(一年女子)等の感想が聞かれたということです。次は進路委員会が担当する「進路講演会」です。一、二年の生徒を対象としており、今年度は国境なき医師団の代表に来ていただきました。世界の紛争地を舞台に人道支援に取り組む人々の話は印象深かったようで、生徒から話を聞いた保護者から「私たちが聞きたかった」との声がたくさん寄せられたということです。

三つ目は「ビデオ上映と冷茶サービス」です。九月に行われる学校の行事で総務委員会の担当です。「ビデオ上映」では、過去の体育祭の様子を収めたDVDを上映しました。文化祭の来場者数を当てるクイズも行うほか、各種ボードゲームも用意しました。涼しい部屋で生徒はゆったりと過ごすことができます。「冷茶サービス」は体育祭で実施、冷たいお茶やスポーツ飲料を生徒に無料で振る舞い、各競技が終わるたびに運営テントは上気した生徒でいっぱいになるということです。中村会長さんのお話から、大野高校PTAの活気ある姿が自然と伝わってきました。同じ大野市の高校の私たちも頑張らなければ、という気持ちで大野高校を後にしました。

(取材) 奥越明成高校PTA会長 前田義也



県教育長との懇談会

教育長との懇談会が11月24日(金)に県庁6階大会議室にて開かれました。県教委からは東村健治教育長、佐々木栄秀学校教育幹、巢守俊彦学校振興課長、清川亨高校教育課長の4名、当連合会からは宮谷正志会長以下10名の役員と11名の各校のPTA会長が参加しました。東村教育長とは初顔合わせとなりました。懇談会での話題は次の四点です。



【1】県立高校再編整備の今後の進め方について

【2】教員の多忙化解消への取り組みについて

【3】学習指導要領改訂、高大接続に関する改革等を踏まえた今後の教育改革の流れについて

【4】「ふるさと福井」へのUターン促進施策について(奨学金制度等も含めて)

四つの話題について、その概要をお伝えします。

【1】平成21年3月に策定された県立高校の再編整備計画において、1学級当たり普通科36名程度・職業系30〜35名程度、1学年4〜8学級を基本とし、職業系では総合産業高校を設置するとともに本県の特徴を生かした新しい学科の設置を検討することとした。この再編

整備計画に基づき、第1次、第2次実施計画を策定し、奥越・若狭・坂井の各地区において再編を進めてきた。今回、丹南地区において年内に再編計画を策定し、平成32年度を目途に丹南高校を鯖江高校に統合し、武生工業高校と武生商業高校を統合する。来年度の初めから、統合再編するそれぞれ高校において設置する準備委員会において、カリキュラムの検討などを進めていく。今後とも地元関係者の意見を踏まえながら、子どもたちのより良い教育環境の整備や、地域の期待にこたえる学校づくりを進めていく。

【2】

働き方改革の一環として、教職員の勤務実態についても注目が集まっている。福井県では昨年度より全教職員を対象に出退勤時刻調査を実施し、部活動の指導が長時間勤務の要因の一つになっていることが分かった。そこで、原則として土日のいずれか1日および平日の1日を部活動休業日とすることなどを進めている。その他、小論文の指導や自習室の管理等に退職教員をシニアティーチャーとして任用するなど外部人材の活用も進めている。その結果、9月の調査では前年度と比べ、在校時間が20分間短縮した。また、事務の効率化を図るため、30年度から全ての県立学校でICTを活用した校務

【3】

支援システムの導入を予定している。「グローバル化や情報化などの急激な社会変化を迎える中で、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」といった力が求められている。このような学力を育てるために文部科学省は学習指導要領を改訂するとともに、大学入試センター試験に代わる大学入学共通テスト(記述問題の導入・外部英語検定試験の活用)を平成32年度から導入するなど、高大接続改革を進めている。本県ではすでに問題解決学習やグループディスカッション、ディベート等を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを促す授業への転換を図っている。県教育委員会では、予備校講師による志望大学別セミナーや英語検定試験・各種検定試験の受験料補助などにより、生徒の頑張りを支援している。

【4】

県外へ進学した生徒に対して福井県へのUターンを促進するため、県内企業の就職情報を提供するとともに、「福井県Uターン奨学金返還支援事業」「福井県ものづくり人材育成修学資金」等の支援事業を推進している。また高校生に対しては、普通科高校の1年生による地元企業訪問の実施や『実は福井の技』の配付などにより、県内企業の優れた技術や魅力について理解を深めている。また、『ふるさと福井の先人100人』を全員に配付するなど福井をよく知り愛着を持つふるさと教育を行っている。

参加者からは、「わかりやすく説明していただき参考になった。生徒が自分で考え行動していける人に育つために、これからもPTA活動を通して教育に関わっていきたい」という感想が寄せられた。



インフォメーション

各校PTA会長・PTA担当者会議の開催日変更

平成29年度事業計画では、「各校PTA会長・PTA担当者会議」が平成30年1月27日(土)開催となっていました。しかし、生活学習館(ユニー・アイふくい)の予約が取れず、近隣にも適当な会場がないため、開催日を以下のように変更することになりました。

この件につきましては、8月18日付福井高P連第51号「平成29年度事業計画の一部期日変更について」(通知)にて各高校へお伝えしてあります。

■各校PTA会長・PTA担当者会議の開催日の変更

期日 平成30年1月28日(日)
会場 生活学習館

高校生総合保障制度 事故受付状況と保険金請求手続きについて

二〇一七年も終わりに近づき、高校生総合保障制度につきましても、数多くのご請求やお問い合わせが保護者の皆さまから当事務局へ寄せられております。今回は昨年度の事故受付状況と保険金請求手続きについてご案内いたします。

一、事故受付状況について

二〇一七年九月までの直近一年間の事故受付状況ですが、事故累計で五〇七件お支払いいたしました。内訳ですが、傷害医療費用補償のお支払いが一四六件、後遺障害保険金のお支払いもございました。事故の内容で、最も多いのは例年スポーツ中の事故となっており、次いで自転車運転中の事故となっております。

この保障制度ではご自身のケガ以外に第三者への賠償事故も対象となっておりますが、今年度は二十一件報告されお支払いしております。誤って友人の持ち物を壊してしまったり、自転車に乗っていて歩行者や他の自転車と接触し大ケガをさせてしまうケースもみられます。

最後に、ケガだけでなく病気の入院を補償するプランに加入されている方もいらっしゃいますが昨年度は二〇件のお支払いがございました。昨今の医療費の増加傾向についてはご存知の通りです。今後は病気も含めた補償もお子さまの為に検討頂ければよりご安心かと存じます。

二、保険金の請求手続きについて ケガ・病気・賠償事故の場合

下記連絡先(012013001399)(通話料無料)・二四時間受付)まで、お手元に加印者証をご用意の上、ご連絡ください。

必要書類等につきましてご案内いたします。 中途加入に関するお問合せ先

高校生総合補償制度事務局
株式会社アイル保険センター

〒910-0003

福井県福井市松本4丁目6番15号

TEL: 0776-12313419

(受付時間: 9時~17時 土、日、祝日、年末年始除く)

平成29年度版

福井県高等学校PTA連合会

高校生総合保障制度 ご案内

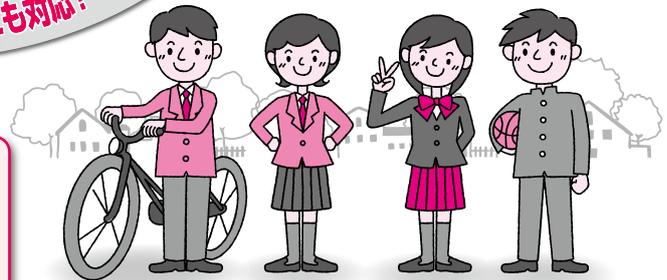
[こども総合保険+自転車総合保険]

部活動によるケガや自転車事故によるケガ・個人賠償責任にも対応!

本制度の特徴

大切なお子さまを補償期間(保険期間)中、
学校が休みの日でも **1日24時間補償**します

ただし、一部の補償は24時間補償ではありません。



2017年12月現在の内容です。

自転車事故等による損害賠償責任も **最高2億円まで補償**

示談交渉サービス*
付帯!

男子小学生が夜間、帰宅途中で自転車で走行中、歩行中の女性と正面衝突。女性が頭蓋骨骨折で意識不明 約9,520万円の賠償命令(神戸地裁判決)

*示談交渉を行う場合は、被保険者および被害者の同意が必要です。

簡単支払特急便 **スピード対応**
お電話一本で手続き完了

ケガによる入院・通院で5万円以下のご請求は、
電話による事故報告のみで保険金をお支払いします。

ハロー健康相談24 **受付時間** 24時間年中無休

医師や経験豊かな看護師、臨床心理士などが、健康・
◆夜中の急病 ◆ケガの応急手当
医療・ストレスに関して電話でアドバイスします。
◆薬の不安・疑問 ◆食欲不振
医療機関に関する情報も提供します。
◆人に話にくい病気

団体割引 **15%適用**

地震・噴火・津波補償

地震・噴火・津波による事故でケガなどをされた場合に補償します。

*プランによって補償項目が異なります。詳細はパンフレットをご確認ください。

育英費用高額プランのご案内

お子さまの将来のために **育英費用高額プラン**

※育英費用高額プランとは、基本プランの育英費用一時金100万円に400万円を上乗せするプランです。

(2018年1月1日以降)

引受保険会社: AIU損害保険株式会社 AIG損害保険株式会社

AIU損害保険と富士火災海上保険は、関係当局の認可等を前提として、2018年1月1日に合併による経営統合を行い、「AIG損害保険」になります。